

令和4年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価（全体）

亀山市地域公共交通会議 （亀山市）

平成19年 1月26日設置

令和 4年 6月20日 亀山市地域公共交通計画策定
（計画期間：令和4年4月～令和9年3月）

令和 4年 6月28日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

高低差のある地形構造であり、津市、四日市市、鈴鹿市の経済圏、生活圏に内包。人口約5万人、高齢化率約27.3%。亀山駅・関駅の徒歩圏内（1km圏内）に公共施設が多く立地。

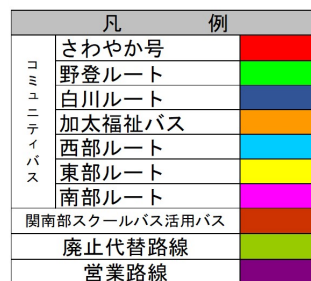
鉄道5駅（井田川駅、亀山駅、関駅、加太駅、下庄駅）、バス11路線（営業路線2路線、廃止代替路線2路線、市コミュニティバス7路線）、その他に乗合タクシー（H30.10運行開始）、民間タクシー、関南部地区スクールバス活用バス等。

鉄道、バス等、本市に係る全ての地域公共交通が一体となって機能し、持続可能な公共交通ネットワークの形成を図るため、新たな「亀山市地域公共交通計画」を令和4年6月に策定。

○計画の区域 亀山市全域
○計画の期間 令和4年度
～令和8年度

○計画の目標 (地域公共交通体系の目標像)

身近な地域公共交通を利用して、
誰もが自由に移動できるまち



幹線的バス

フィーダー系路線

※1 地域間幹線系統補助路線

※2 地域内フィーダー系統補助路線

・ 亀山市地域公共交通計画の目標を達成するための施策・事業（抜粋）

■ 各種イベント等と連携した公共交通のPR活動

- ・ バス運行事業者と連携したバス利用促進活動
 - ⇒新図書館への誘導を目的に、三重交通SNSを活用した情報発信
 - ⇒三重交通バス、市コミュニティバスの利用促進
- ・ 乗合タクシー制度の出前講座の開催（3回）
 - ⇒実績：新規登録者7名、特定目的地停留所1ヶ所新設



三重交通SNS

■ 幹線的バス運行・維持

- ・ 隣接市と連携した利用促進啓発活動
 - ⇒津市及び鈴鹿市と連携したバス利用啓発チラシの回覧
みずほ台線（鈴鹿市と連携）と棕本線（津市と連携）
を沿線住民を中心にPR（R4.10,R5.3）



津市・鈴鹿市と連携した
幹線的バス利用啓発チラシ

■ 利用環境の整備

- ・ 亀山駅、あいあい、その他乗継拠点における待合環境向上
 - ⇒亀山駅周辺整備により、亀山駅前のバス待合環境は整備された



亀山駅前

・ 亀山市地域公共交通計画の目標を達成するための施策・事業（抜粋）

■ 鉄道の利便性向上の要請と利用促進活動

- ・ 鉄道関係の各種同盟会や関係機関、関係市町村と連携した要望活動の実施（R5.1～2）
- ・ 鉄道事業者と連携し、観光誘客を含む鉄道利用者増へ向けた利用促進啓発活動の実施
 - ⇒ 関西本線（亀山～加茂間）の利用者が年々減少していることを受け、令和4年6月に三重県、亀山市、伊賀市、JR西日本で「関西本線活性化利用促進三重県会議」を発足し、利用促進活動を実施。その一つとして、令和5年3月11日、12日にJR大阪駅にて、三重県への観光誘客および県産品の販売プロモーション、関西本線の利用促進を目的とした「三重県まるみえフェスタ」を開催



三重県まるみえフェスタ

■ 環境対策・バリアフリー化

- ・ バス・タクシー車両の改善（低公害型車両、ノンステップバス等）
 - ⇒ コミュニティバス「野登ルート」、「東部ルート」、「南部ルート」において、乗降に便利なオートステップ機能や車イスのまま乗降できる仕様の新型車両の本格導入に向けた試行運転を開始



新型車両

3.【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察

5

亀山市地域公共交通計画目標・評価指標	現状値 (H30年度)	目標値 (R8年度)	達成状況 (R4年度)	考察
市内バス路線等の利用者総数	313,053人	317,000人以上	未達成 〔212,807人〕	●コミュニティバス路線等の利用者総数について、地域との意見交換会やPRチラシの回覧等の利用促進活動を行ったこともあり、利用者数は令和3年度(68,619人)に比べ回復したが、コロナ禍前の水準まで回復していない。 ●要因として、新型コロナウイルス感染症の影響による輸送需要の変化や利用者ニーズの変化等が考えられる。 ●一方で、乗合タクシーの利用者総数については、バス利用者の回復等もあり昨年度(4,688人)並みで推移した。
コミュニティバス路線の利用者総数	90,296人	102,000人以上	未達成 〔73,861人〕	
乗合タクシーの利用者総数	3,741人 〔R2〕	4,800人 〔R4〕	未達成 〔4,514人〕	
コミュニティバス路線の1便あたりの平均乗車人員数	—	—	—	—
さわやか号	7.7人/便・日	7.7人/便・日以上	未達成 〔5.5人/便・日〕	●新型コロナウイルス感染症の影響による輸送需要の変化などにより、利用率の高い高齢者の利用が、コロナ禍以前の平成30年度水準まで回復していない。
野登・白川地区自主運行バス	4.4人/便・日	4.4人/便・日以上	未達成 〔2.7人/便・日〕	●新型コロナウイルス感染症の影響による輸送需要の変化などにより、利用率の高い高齢者の利用が、コロナ禍以前の平成30年度水準まで回復していない。
東部ルート	4.1人/便・日	4.1人/便・日以上	達成 〔4.1人/便・日〕	●利用率の高い通勤・通学利用者の回復が考えられる。
南部ルート	2.7人/便・日	2.7人/便・日以上	未達成 〔2.3人/便・日〕	●新型コロナウイルス感染症の影響による輸送需要の変化などにより、利用率の高い通勤・通学利用者が、コロナ禍以前の平成30年度水準まで回復していない。
西部ルート	2.5人/便・日	2.5人/便・日以上	未達成 〔1.8人/便・日〕	●新型コロナウイルス感染症の影響による輸送需要の変化などにより、利用率の高い高齢者の利用が、コロナ禍以前の平成30年度水準まで回復していない。
加太地区福祉バス	4.6人/便・日	4.6人/便・日以上	未達成 〔4.0人/便・日〕	●新型コロナウイルス感染症の影響による輸送需要の変化などにより、利用率の高い通学利用者が、コロナ禍以前の平成30年度水準まで回復していない。
市内の鉄道駅の乗車人員数(1日平均)	3,490人	3,400人以上	未達成 〔2,764人〕 ※数値は令和3年度	●新型コロナウイルス感染症の影響による輸送需要の変化などにより、利用率の高い通勤・通学利用者が、コロナ禍以前の平成30年度水準まで回復していない。
移動環境に対する不満割合	15.6% 〔R2〕	15%以下	—	●令和7年度実施予定の市民アンケートで検証を行う。
コミュニティバス路線の収支率	8.6%	10.0%以上	未達成 〔5.2%〕	●燃料費高騰による業務委託料の増加や利用者減少による乗車徴収金の減少により、収支率が低下している。
公共交通維持に係る年間実質負担額	1億511万円/年 〔R2〕	概ね1億円/年	未達成 〔1億2,704万円/年〕	●燃料費高騰による業務委託料の増加や利用者減少による乗車徴収金の減少により、年間実質負担額が増加している。

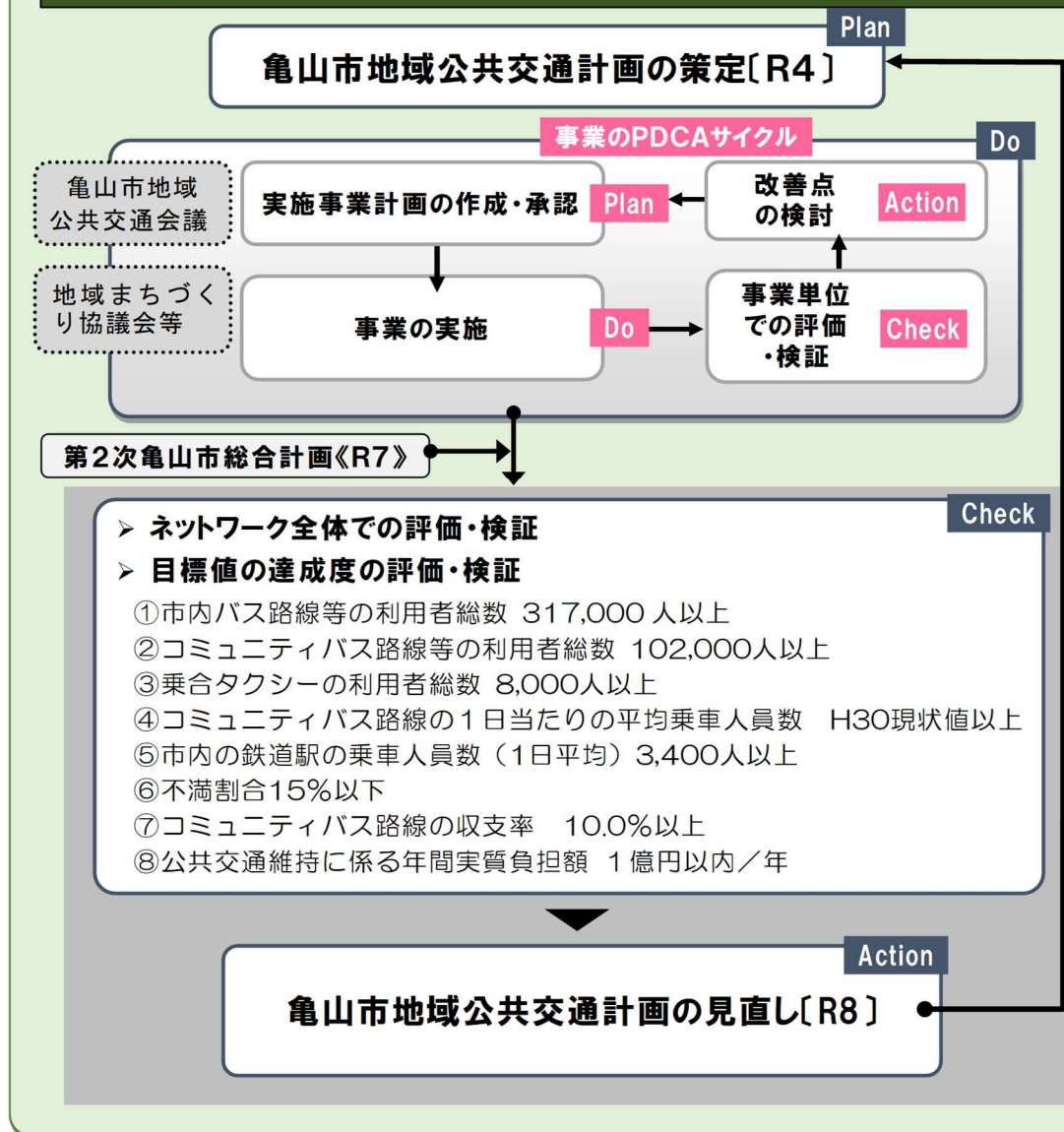
4.【Act】計画目標の達成に向けた今後の取組方針 の作成

6

計画目標の現在の到達点	今後の取組方針
市内バス路線等の利用者総数について、現状では未達成であるが、令和3年度に比べると回復傾向にある。	●市内バス路線等の利用者総数は、令和3年度に比べると回復傾向にあるものの、コロナ禍以前の水準まで回復していないことから、今後も積極的に地域に出向き意見交換会の実施や地域と連携・協働によるバス活用イベント等の利用促進活動を展開していくとともに、輸送量が低迷している地域間幹線系統について、引き続き隣接市（津市・鈴鹿市）やバス運行事業者と連携し、利用促進活動を実施する。また、利用者ニーズを把握するため、バス乗降調査を実施する。
市内の鉄道駅の乗車人員数（1日平均）は、新型コロナウイルス感染症の影響による輸送需要の変化などにより減少傾向にある。	●乗合タクシーの定着と利用促進を図るため、継続的な出前講座の実施や各種団体等へ積極的に出向き制度の説明を行うとともに、利用者アンケート調査を行い、地域実情や利用実態を分析する。また、新規登録者へ無料体験乗車券の配布や様々な媒体を活用した積極的な制度周知に努め、利用者の増加を目指す。 ●分かりやすい公共交通マップを作成し、鉄道、バス、乗合タクシー等の市内公共交通全体を一体的にPRし、相乗効果が図られるよう利用促進活動を行う。 ●来訪者や市民に鉄道による広域的な移動の利便性を高めるため、県、沿線自治体及び関係団体と連携し、JRに対し、利便性の向上について働きかけを行うとともに、鉄道事業者と連携し、観光誘客を含む鉄道利用者増へ向けた利用促進啓発活動を実施する。
燃料費高騰による業務委託料の増加や利用者減少による乗車徴収金の減少により、収支率は低下、年間実質負担額は増加している。	●鉄道遺産等沿線の地域資源の活用や情報発信、地域づくり活動など、地域活性化の取り組みと連動した公共交通の利用促進を図る。 ●新たな技術を活用した取組の調査・研究に加え、必要に応じて、意向調査も実施しながら、鉄道やバス等の乗り継ぎや主要施設へのアクセスを考慮したダイヤの見直しの検討を行い、ニーズやサービス、コストを考慮した市内地域公共交通の最適な組み合わせによる運行を検討する。

公共交通ネットワーク(亀山市地域公共交通計画)のPDCAサイクル

目標達成のための事業のPDCAサイクル(毎年度実施)



【令和4年度交通会議の実施状況】

第1回会議 令和4年6月28日

主な議題

- ・ 令和3年度地域公共交通事業評価について
- ・ 令和5年度地域公共交通確保維持事業(亀山市地域公共交通計画)について

第2回会議 令和4年12月27日(書面)

主な議題

- ・ 廃止代替路線バスの運賃改定について

第3回会議 令和5年1月11日

主な議題

- ・ 令和4年度地域公共交通確保維持改善に関する自己評価について
- ・ 乗合タクシーの利用促進策について

亀山市地域公共交通計画における目標を達成するための事業の検証

亀山市地域公共交通計画（P63）における「目標を達成するための事業及び実施主体」

検証日：令和5年4月1日（事業期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日）

基本方針	施策	事業	継続 新規	事業内容	事業実施年度					実施主体
					R4	R5	R6	R7	R8	
					上 期	下 期	上 期	下 期	上 期	
1. 子どもから高齢者まで自由に移動できる、利用しやすく、分かりやすい地域公共交通の実現	①情報提供と公共交通PR活動	情報提供	継続	乗継拠点における総合案内板の設置、バス車両、バス停等への系統表示及び乗継案内表示の充実						亀山市・バス運行事業者
			継続	地域の観光資源を含むバスマップ及び分かりやすいダイヤ表の作成、亀山市ホームページ及びインターネット検索の充実等						亀山市・三重県・バス運行事業者
		各種イベント等と連携した公共交通のPR活動	継続	子どもや高齢者向けのバス乗り方教室の開催						亀山市・三重県・バス運行事業者・地域
			継続	市のイベント時におけるバス利用促進啓発活動、商業振興等の関係団体と連携したバス利用促進活動の実施						亀山市・関係団体・バス運行事業者
			新規 (実施済)	乗合タクシー制度の出前講座の開催						亀山市・地域
2. 鉄道駅を中心に都市拠点と居住地を結び、まちづくりと連動した地域公共交通ネットワークの形成	②路線バスの運行・維持・再編	幹線的バス運行・維持	継続	亀山国府線、亀山みずほ台線、亀山棕本線、亀山関工業団地線、さわやか号の継続運行及びサービス水準の維持						亀山市・バス運行事業者・関係団体・隣接市(津市・鈴鹿市)
			継続	隣接市（津市・鈴鹿市）及びバス運行事業者と連携して、利用促進啓発活動の実施						亀山市・バス運行事業者・関係団体・隣接市(津市・鈴鹿市)
		地域生活バス等運行・維持・再編	継続	地域生活バス（コミュニティバス）の継続運行及びサービス水準の維持						亀山市・バス運行事業者・地域
3. 地域の利用者ニーズを踏まえた、地域公共交通の最適化による効率的で効果的な交通サービスの提供	③地域公共交通の最適化	乗合タクシーの運行・充実	新規 (実施済)	乗合タクシーの運行及びサービス水準の向上						亀山市・タクシー事業者・地域
		地域公共交通の最適化	新規	ニーズやサービス、コストを考慮した市内地域公共交通の最適な組み合わせによる運行の協議						亀山市・タクシー事業者・地域
		アクセスの向上	新規 (実施済)	鉄道やバス等の乗り継ぎや主要施設へのアクセスを考慮したダイヤの設定（見直し）						亀山市・鉄道事業者・バス運行事業者・タクシー事業者
		ニーズの把握	継続	公共交通にかかる地域ニーズの把握・乗降調査等の実施						地域・亀山市
		運賃収入以外の収入確保に向けた取組	継続	車内広告、バス停ネーミングライツ、協賛金等の導入協議						亀山市・バス運行事業者・乗合タクシー運行事業者・関係団体

検証

検証			
事業達成状況	達成度	事業評価	課題
亀山駅前にデジタルサイネージが設置され、市内公共交通情報を検索できるようになった。	○	●亀山駅前のデジタルサイネージでは、市内公共交通情報の他、観光情報や公共施設情報等検索することができ、利用者の利便性は向上したと考えられる。	●亀山駅前のデジタルサイネージでは、バス路線図や時刻表を確認できるが、インターネットの路線検索でできるような検索方法はない。
引き続きGoogleマップやジョルダン、ナビタイム、駅探等インターネットでの路線検索を可能にした。	○	●引き続きGoogleマップやジョルダン、ナビタイム、駅探等インターネットでの路線検索を可能にしたことにより、利用者の利便性は向上したと考えられる。	●コミュニティバス各路線のダイヤ表はあるが、鉄道、バス、乗合タクシー等が一体となった公共交通マップがないため、分かりやすい公共交通マップを作成する必要がある。
鈴鹿市が実施した子育て世代向けのバス乗り方教室の視察を行った。	△	●効果的なバス乗り方教室実施に向け、鈴鹿市が実施した子育て世代向けのバス乗り方教室の視察を行った。	●ターゲット層を絞り込み、効果的なバスの乗り方教室を開催する必要がある。
亀山市地域公共交通会議で作成した利用促進グッズを各種イベント時に配布し、バス利用促進啓発活動を行った。	○	●バス利用促進啓発活動を行ったこともあり、令和4年度のバス利用者数は昨年度より回復した。	●バス利用者数は回復傾向にあるものの、コロナ禍以前の水準まで回復していないことから、継続的な利用促進啓発活動を行っていく必要がある。
乗合タクシー制度の出前講座を3回開催した。	◎	●乗合タクシー制度の出前講座の実績は、新規登録者7名、特定目的地停留所1ヶ所新設であった。	●乗合タクシー制度の定着や利用促進を図るため、継続的な出前講座を開催する必要がある。
幹線的バスの継続運行及びサービス水準を維持した。	◎	●幹線的バスの継続運行及びサービス水準を維持することができた。	●幹線的バスは、当市の公共交通の骨格を形成する路線バスとして、現状の運行形態を維持する必要がある。
利用促進啓発活動として、隣接市（津市・鈴鹿市）と連携し、沿線住民へ「亀山棕本線」及び「亀山みずほ台線」のチラシを回覧した。また、バス運行事業者と連携し、新図書館への誘導を目的に、SNSを活用した情報発信を行った。	◎	●隣接市（津市・鈴鹿市）やバス運行事業者と連携し、チラシだけでなく、SNSを活用した利用促進啓発活動を実施することができた。	●バス利用者数は回復傾向にあるものの、コロナ禍以前の水準まで回復していないことから、輸送量が低迷している地域間幹線系統について、隣接市（津市・鈴鹿市）やバス運行事業者と連携した継続的な利用促進啓発活動を行っていく必要がある。
地域生活バス（コミュニティバス）の継続運行及びサービス水準を維持した。また、利用促進啓発活動として、沿線住民へチラシを回覧した。	◎	●地域生活バス（コミュニティバス）の継続運行及びサービス水準を維持することができた。	●幹線的バスが運行しない地域において、移動困難者の通学、通院、買物等市民生活に必要な最小限度のサービス水準を確保・維持する必要がある。
乗合タクシーの運行を継続して行い、停留所を3ヶ所増設した。	○	●乗合タクシーの継続運行やサービス水準向上のため、停留所を3ヶ所増設することができた。	●バス路線だけでは対応ができない市内の公共交通不便地域の解消及び今後増加が見込まれる運転免許証返納者への対応として、運行を継続していく必要がある。また、サービス水準向上のため、タクシー事業者と情報交換・協議を継続して実施する必要がある。
乗合タクシーの出前講座や地域まちづくり協議会との公共交通についての意見交換会を行い、市内公共交通（鉄道・バス・乗合タクシー等）の最適な組み合わせ（上手な活用方法）について説明を行った。	○	●乗合タクシーの出前講座や地域との意見交換会を計7回実施したこともあり、市内バス路線等の利用者総数は昨年度に比べ回復した。（204,768人⇒212,807人）	●市内公共交通全体の相乗効果が図られるよう、引き続きタクシー事業者や地域等と情報交換・協議を実施する必要がある。
乗合タクシーの出前講座や地域まちづくり協議会との公共交通についての意見交換会を行い、地域ニーズの把握や現状把握に努めた。	○	●乗合タクシーの出前講座や地域との意見交換会を計7回実施したこともあり、市内バス路線等の利用者総数は昨年度に比べ回復した。（204,768人⇒212,807人）	●地域ニーズの把握や現状把握に努め、鉄道やバス等の乗り継ぎや主要施設へのアクセスを考慮したダイヤの設定（見直し）を検討する必要がある。
地域まちづくり協議会と公共交通についての意見交換会を行い、地域ニーズの把握に努めた。	○	●地域まちづくり協議会との意見交換会を4回開催し、地域ニーズの把握に努めた。	●ニーズを把握するため、地域まちづくり協議会との意見交換会や乗降調査を実施する必要がある。
乗合タクシーの特定目的地停留所の設置について、商業施設等からの負担金制度（30,000円／1事業所・2支店以上の設置は50,000円）で、実績は3件（90,000円）であった。	○	●バス路線等の運賃収入以外の収入を確保することができた。	●燃料費高騰により運行経費が年々増加していることから、収支率の改善には運賃収入だけでなく、車内広告収入等の運賃外収入の確保も必要不可欠であるため、引き続き検討していく必要がある。

亀山市地域公共交通計画における目標を達成するための事業の検証

亀山市地域公共交通計画（P63）における「目標を達成するための事業及び実施主体」

検証日：令和5年4月1日（事業期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日）

基本方針	施策	事業	継続 新規	事業内容	事業実施年度					実施主体
					R4	R5	R6	R7	R8	
					上期	下期	上期	下期	上期	
4. デジタル化やニューノーマルにも対応できる、新たな利用環境の整備と利便性の高い公共交通の構築	④新たな利用環境整備	新たな技術を活用した交通サービスの調査研究	新規	A I ・ I ｏ T等新たな技術を活用した効率的・効果的な交通サービスの調査研究						亀山市・バス運行事業者・乗合タクシー運行事業者
		感染症の防止対策	新規 (実施済)	公共交通機関における感染防止対策の実施						亀山市・鉄道事業者・バス運行事業者・タクシー事業者
		利用環境の整備	継続	亀山駅、あいあい、その他乗継拠点における待合環境向上						亀山市・バス運行事業者
5. 持続可能な地域公共交通の実現に向けた、地域と共に考える利用促進策の展開	⑤公共交通利用促進	鉄道の利便性向上の要請と利用促進活動	継続	鉄道関係の各種同盟会や関係機関、関係市町と連携した要望活動の実施						亀山市・関係団体・鉄道事業者
			継続	鉄道事業者と連携し、観光誘客を含む鉄道利用者増へ向けた利用促進啓発活動の実施						亀山市・関係団体・鉄道事業者・地域
		住民主体の取り組み支援	継続	地域が主体となった「地域自主運行バス」の導入の推進と支援体制等の構築（関南部地区方面のスクールバスの活用継続）						地域・亀山市
		地域づくりと一体となった取組	継続	子ども会や老人クラブなど地域の団体による路線バスを活用したイベント等の開催						亀山市・三重県・バス運行事業者・地域
			継続	地域住民による当事者意識の醸成と各種活動の実施（利用モデルダイヤ作成、バス停、付帯施設及び周辺における環境整備等）						地域・亀山市・バス運行事業者
		利用促進誘導	新規	地域ボランティアによる乗合タクシーの乗車支援						亀山市・乗合タクシー運行事業者・地域
			新規	交通系 I Cカードを活用した利用促進策の実施						亀山市・バス運行事業者
		環境対策・バリアフリー化	継続	バス・タクシー車両の改善（低公害型車両、ノンステップバス等）	運行車両更新時に応じて					バス運行事業者・亀山市
		近隣自治体との広域連携の強化	新規	隣接自治体のコミュニティバスとの乗り継ぎ改善と相互乗り入れの協議						亀山市・バス運行事業者・隣接市（津市・鈴鹿市）

検証

検証			
事業達成状況	達成度	事業評価	課題
先進地の視察を行った。	○	●A I ・ I ｏ T等新たな技術を活用した効率的・効果的な交通サービスの調査研究を行った。	●引き続き先進地の視察や勉強会に参加し、A I ・ I ｏ T等新たな技術を活用した効率的・効果的な交通サービスの調査研究を行う必要がある。
運転手のマスク着用や車内換気の徹底、運行車両に抗菌・抗ウイルス加工施行済や空間除菌・消毒中の表示等を引き続き実施し、利用者が安心して利用できるよう努めた。	◎	●安心して公共交通を利用してもらえるよう、公共交通における新型コロナウイルス対策を実施できた。	●新型コロナウイルス感染症の位置づけについて、「2類相当」から「5類」に移行したが、利用者が安心して利用できるよう、引き続き感染防止対策の実施をしていく必要がある。
亀山駅周辺整備により、亀山駅前のバス待合環境は整備され、利用者の利便性は向上したと考えられる。	○	●亀山駅周辺整備により、亀山駅前のバス待合環境は整備され、利用者の利便性は向上したと考えられる。	●引き続き他の待合環境の向上にも努める必要がある。
鉄道関係の各種同盟会や関係機関、関係市町と連携した要望活動を実施した。	◎	●鉄道関係の各種同盟会や関係機関、関係市町村と連携し、鉄道の利便性向上に向けた要望活動を実施することができた。	●鉄道の利便性向上のため、各種同盟会や関係機関、関係市町村と連携し、要望活動を継続して行う必要がある。
関西本線（亀山～加茂間）の利用者が年々減少していることを受け、令和4年6月に三重県、亀山市、伊賀市、JR西日本で「関西本線活性化利用促進三重県会議」を発足し、利用促進活動を実施した。	◎	●鉄道事業者と連携し、J R大阪駅にて、三重県への観光誘客および県産品の販売プロモーション、関西本線の利用促進を目的とした「三重県まるみえフェスタ」を開催した。	●コロナ禍以前の水準まで鉄道利用者は回復していないため、引き続き鉄道事業者と連携し、観光誘客を含む鉄道利用者増へ向けた利用促進啓発活動を実施する必要がある。
「地域自主運行バス」の導入に向けて、関南部地区まちづくり協議会と情報交換を行った。	○	●「地域自主運行バス」の導入に向けて、関南部地区まちづくり協議会と情報交換を行うことができた。	●地域需要等を把握し、地域が主体となった「地域自主運行バス」の導入に向け、情報交換・協議を継続して実施する必要がある。
老人クラブ連合会や川崎地区自治会連合会で、バス試乗会を実施していただいた。	○	●地域の団体等と連携・協働による利用促進活動を実施できた。	●引き続き地域の団体等と連携・協働による路線バスを活用したイベント等を開催していく必要がある。
市内公共交通について、地域まちづくり協議会の広報誌やホームページ等に掲載していただいた。	○	●地域が主体となった利用促進活動を実施できた。	●引き続き地域が主体となった利用促進活動を実施していただけるよう、情報交換・協議を継続して実施する必要がある。
乗合タクシーの出前講座や地域まちづくり協議会との公共交通についての意見交換会を行い、乗合タクシーの利用促進策について情報交換を行った。	△	●乗合タクシーの出前講座や地域まちづくり協議会との公共交通についての意見交換会を行い、乗合タクシーの利用促進策について情報交換することができた。	●地域ボランティアによる乗合タクシーの乗車支援実施に向けて、乗合タクシーの出前講座や地域まちづくり協議会との公共交通についての意見交換会等を継続して実施する必要がある。
交通系 I Cカードを活用した利用促進策や周知方法について検討を行った。	△	●交通系 I Cカードを活用した先進地の利用促進策や周知方法について調査研究を行った。	●ターゲット層を絞り込み、効果的な利用促進策を実施する必要がある。
コミュニティバス「野登ルート」、「東部ルート」、「南部ルート」において、乗降に便利なオートステップ機能や車イスのまま乗降できる仕様の新型車両の本格導入に向けた試行運転を開始した。	○	●新型車両は、乗降に便利なオートステップ機能や車イスのまま乗降できる仕様となっており、利用者の利便性は向上したと考えられる。	●現在試行運転中のバスを導入していただくよう、交通事業者へ依頼する必要がある。また、車両更新時には、低公害型車両やノンステップバス、スライドドアタイプのタクシー車両等を導入していただくよう、引き続き交通事業者へ依頼していく必要がある。
乗合タクシーの出前講座や地域まちづくり協議会との公共交通についての意見交換会を行い、地域ニーズの把握や現状把握に努めた。また、隣接市（津市・鈴鹿市）との意見交換と情報共有を図った。	△	●乗合タクシーの出前講座や地域まちづくり協議会との意見交換会を計7回開催し、地域ニーズの把握や現状把握に努めた。また、隣接市（津市・鈴鹿市）との意見交換と情報共有を図ることができた。	●隣接自治体のコミュニティバスとの乗り継ぎ改善と相互乗り入れについては、現在運行している鉄道やバスとの整合、市外を運行する交通事業者や関係機関との協議など、様々な問題があるため、引き続き調査研究を行うていく必要がある。

注）事業達成状況の[達成度]の表記・・・「◎」：(概ね)達成、「○」：実施段階、「△」：検討段階
達成度：25事業中、◎7事業、○14事業、△4事業

亀山市（区町村）地域公共交通計画の評価等結果（令和4年4月～令和5年3月）

目 標		目標を達成するための 取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
市内バス路線等の利用者総数 【目標値】 令和8年度 317,000人以上		隣接市（津市・鈴鹿市）と連携し、利用促進啓発チラシを作成し、沿線住民へ回覧した。また、亀山駅周辺整備により、亀山駅前のバス待合環境は整備された。	亀山市及びバス運行事業者データ	・未達成 ・212,807人（令和4年度） ・新型コロナウイルス感染症の影響による輸送需要の変化や利用者ニーズの変化等があり、利用者数はコロナ禍以前の水準まで回復していない。	・今後も積極的に地域に出向き意見交換会の実施や地域と連携・協働によるバス活用イベント等の利用促進活動を展開していくとともに、輸送量が低迷している地域間幹線系統について、引き続き隣接市（津市・鈴鹿市）やバス運行事業者と連携し、利用促進活動を実施する。また、利用者ニーズを把握するため、バス乗降調査を実施する。	
コミュニティバス路線の利用者総数 【目標値】 令和8年度 102,000人以上		地域との意見交換会やバス運行事業者と連携し、新図書館への誘導を目的に、SNSを活用した情報発信を行った。また、「野登ルート」、「東部ルート」、「南部ルート」において、乗降に便利なオートステップ機能や車イスのまま乗降できる仕様の新型車両の本格導入に向けた試行運転を開始した。	亀山市及びバス運行事業者データ	・未達成 ・73,861人（令和4年度） ・新型コロナウイルス感染症の影響による輸送需要の変化や利用者ニーズの変化等があり、利用者数はコロナ禍以前の水準まで回復していない。	・分かりやすい公共交通マップを作成し、鉄道、バス、乗合タクシー等の市内公共交通全体を一体的にPRし、相乗効果が図られるよう利用促進活動を行う。	
乗合タクシーの利用者総数 【目標値】 令和4年度 4,800人		乗合タクシー制度の定着や利用促進を図るため、出前講座を開催した。（計3回）	亀山市データ	・未達成 ・4,514人（令和4年度） ・バス利用者の回復等もあり、令和3年度並みで推移した。 (R3:4,688人⇒R4:4,514人)	乗合タクシーの定着と利用促進を図るため、継続的な出前講座の実施や各種団体等へ積極的に出向き制度の説明を行うとともに、利用者アンケート調査を行い、地域実情や利用実態を分析する。また、新規登録者へ無料体験乗車券の配布や様々な媒体を活用した積極的な制度周知に努め、利用者の増加を目指す。	
コミュニティバス路線の 1便あたりの平均乗車人員数		地域との意見交換会やバス運行事業者と連携し、新図書館への誘導を目的に、SNSを活用した情報発信を行ったとともに、利用促進啓発チラシを作成し、沿線住民へ回覧した。また、「野登ルート」、「東部ルート」、「南部ルート」において、乗降に便利なオートステップ機能や車イスのまま乗降できる仕様の新型車両の本格導入に向けた試行運転を開始した。	亀山市及びバス運行事業者データ	-	-	
	さわやか号 【目標値】 令和8年度 7.7人/便・日以上			・未達成 ・5.5人/便・日以上（令和4年度）	・今後も積極的に地域に出向き意見交換会の実施や地域と連携・協働によるバス活用イベント等の利用促進活動を展開していく。また、利用者ニーズを把握するため、バス乗降調査を実施する。 ・必要に応じて、意向調査を実施し、鉄道やバス等の乗り継ぎや主要施設へのアクセスを考慮したダイヤの見直しの検討を行う。	
	野登・白川地区自主運行バス 【目標値】 令和8年度 4.4人/便・日以上			・未達成 ・2.7人/便・日以上（令和4年度）		
	東部ルート 【目標値】 令和8年度 4.1人/便・日以上			・達成 ・4.1人/便・日以上（令和4年度）		
	南部ルート 【目標値】 令和8年度 2.7人/便・日以上			・未達成 ・2.3人/便・日以上（令和4年度）		
	西部ルート 【目標値】 令和8年度 2.5人/便・日以上			・未達成 ・1.8人/便・日以上（令和4年度）		
	加太地区福祉バス 【目標値】 令和8年度 4.6人/便・日以上			・未達成 ・4.0人/便・日以上（令和4年度）		

（記載に当たっての留意事項）

- ・ 本様式中、表題の「（○年○月～○年○月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「－」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

亀山市（区町村）地域公共交通計画の評価等結果（令和4年4月～令和5年3月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
市内の鉄道駅の乗車人員数（1日平均） 【目標値】 令和8年度 3,400人以上	県、沿線自治体及び関係団体と連携し、ＪＲに対し、利便性の向上について要望活動を実施した。また、関西本線（亀山～加茂間）の利用者が年々減少していることを受け、令和4年6月に三重県、亀山市、伊賀市、JR西日本で「関西本線活性化利用促進三重県会議」を発足し、利用促進活動を実施した。	三重県統計書データ	・未達成 ・2,764人（令和3年度） ・新型コロナウイルス感染症の影響による輸送需要の変化などにより、利用率の高い通勤・通学利用者が、コロナ禍前の水準まで回復していない。	来訪者や市民に鉄道による広域的な移動の利便性を高めるため、県、沿線自治体及び関係団体と連携し、ＪＲに対し、利便性の向上について働きかけを行うとともに、鉄道事業者と連携し、観光誘客を含む鉄道利用者増へ向けた利用促進啓発活動を実施する。また、地域と連携を図り、地域資源を活かした利用促進活動も実施する。	
移動環境に対する不満割合 【目標値】 令和8年度 15%以下	乗合タクシーの出前講座や地域まちづくり協議会との公共交通についての意見交換会を行い、地域ニーズの把握や現状把握に努めた。	市民アンケート（R7年度実施）	・令和7年度実施予定の市民アンケートで検証を行う。	乗合タクシーの出前講座や地域まちづくり協議会との意見交換会、乗降調査等を実施し、地域ニーズの把握や現状把握に努める。	
コミュニティバス路線の収支率 【目標値】 令和8年度 10.0%以上	バス利用者増に向けて、地域との意見交換会やバス運行事業者と連携し、新図書館への誘導を目的に、SNSを活用した情報発信を行った。	亀山市及びバス運行事業者データ	・未達成 ・5.2%（令和4年度） ・燃料費高騰による業務委託料の増加や利用者減少による乗車徴収金の減少により、収支率が低下した。	バス利用者増に向けて、今後も積極的に地域に出向き意見交換会の実施や地域と連携・協働によるバス活用イベント等の利用促進活動を展開していく。また、利用者ニーズを把握するため、バス乗降調査を実施する。	
公共交通維持に係る年間実質負担額 【目標値】 令和8年度 概ね1億円/年	乗合タクシーの出前講座や地域まちづくり協議会との公共交通についての意見交換会を行い、市内公共交通（鉄道・バス・乗合タクシー等）の最適な組み合わせ（上手な活用方法）について説明を行った。	亀山市データ	・未達成 ・1億2,704万円/年（令和4年度） ・燃料費高騰による業務委託料の増加や利用者減少による乗車徴収金の減少により、年間実質負担額が増加した。	新たな技術を活用した取組の調査・研究に加え、必要に応じて、意向調査も実施しながら、鉄道やバス等の乗り継ぎや主要施設へのアクセスを考慮したダイヤの見直しの検討を行い、ニーズやサービス、コストを考慮した市内地域公共交通の最適な組み合わせによる運行を検討する。	

（記載に当たっての留意事項）

- ・ 本様式中、表題の「（○年○月～○年○月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「－」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。